

古谷綱正 ふるや なるひ 評論家。明治四十五年四月二十一日東京生まれ、平成元年五月十一日歿（一九二一―一九九一）。京都帝國大學文學院美術學科卒。毎日新聞社入社。昭和二十八年論說委員となり、丸山幹治の後を承けて十年間『余録』を執筆。三十九年退社後はTBSテレビ系「ニュースコンピュータ」のキャスターとして五十六年まで擔當しパ・ニュース・キャスターの草分け。評論家古谷綱武の弟。

著書『一等女性十人の恋』（昭和二十年二月）（二十一頁京西文研社）、『はだか放談―紳士・淑女大いじ語る（第一集）』（合著・あまとりあ社編集総編、昭和二十年九月一日あまとりあ社）、『新聞作法―ジャーナリスト的ものの考え方』（昭和二十一年二月）（百頁光文社）『カッパ・ブックス』、『私だけの映画史』（昭和五十二年十一月一日暮しの手帖社）等。

